

後期計画の策定に向けた地域検討会議等の実施状況について

1 実施状況

■地域検討会議（第4回）

会議構成員：市町村長、市町村教育委員会教育長、市町村産業関係者、PTA 関係者、各地区の中学校長の代表者

ブロック名	ブロック内市町村名	実施日時	出席者数（事務局を除く）				
			会議 構成員	県議会 議員	県立 高校長	一般 傍聴	報道 関係
盛岡①	八幡平市、岩手町、雫石町、葛巻町	8月17日（月）	17	5	4	6	2
盛岡②	盛岡市、滝沢市、紫波町、矢巾町	8月28日（金）	19	11	12	7	2
岩手中部	花巻市、北上市、西和賀町	8月18日（火）	16	7	9	11	3
胆江	奥州市、金ケ崎町	7月29日（水）	10	3	8	10	5
両磐	一関市、平泉町	7月31日（金）	9	4	6	9	5
気仙	大船渡市、陸前高田市、住田町	8月31日（月）	13	1	4	2	3
釜石・遠野	釜石市、遠野市、大槌町	9月4日（金）	16	3	5	8	2
宮古	宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村	9月3日（木）	19	0	6	8	1
久慈	久慈市、洋野町、野田村、普代村	9月2日（水）	18	0	5	5	3
二戸	二戸市、軽米町、九戸村、一戸町	7月30日（木）	17	3	5	5	3
計			154	37	64	71	29
			355				

■意見交換会（第2回） 対象：一般県民

ブロック名	ブロック内市町村名	実施日時	出席者数	
			一般参加者	報道関係
盛岡	盛岡市、八幡平市、滝沢市、雫石町、葛巻町、岩手町、紫波町、矢巾町	8月28日（金）	44	3
岩手中部	花巻市、北上市、西和賀町	8月18日（火）	41	2
胆江	奥州市、金ケ崎町	7月29日（水）	45	3
両磐	一関市、平泉町	7月31日（木）	36	2
気仙	大船渡市、陸前高田市、住田町	8月31日（月）	4	3
釜石・遠野	遠野市、釜石市、大槌町	9月4日（金）	14	2
宮古	宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村	9月3日（木）	31	1
久慈	久慈市、普代村、野田村、洋野町	9月2日（水）	17	1
二戸	二戸市、軽米町、九戸村、一戸町	8月7日（金）	46	2
計			278	19
			297	

■パブリック・コメント（実施期間：令和2年2月7日～3月13日 意見の数：192件）

2 地域検討会議及び意見交換会の内容

(1) 後期計画（案）の内容について

本県の高等学校教育の現状や課題、後期計画（案）の基本的な考え方や具体的な取組について、資料に基づき事務局から説明を行った。

(2) 後期計画の策定に向けた意見交換

下記をテーマとして設定し、計画全体及び具体的な取組について意見交換を行った。

<意見交換テーマ>

(1) 後期計画の基本的な考え方等について (2) 後期計画の具体的な取組について

後期計画策定に向けた地域検討会議で出された意見等

1 後期計画の基本的な考え方について

「生徒の希望する進路の実現」と「地域や地域産業を担う人づくり」の基本的な考え方について、評価するとの意見を多数いただいた。

○主な意見

- ・ 学級減を中心とした「数合わせ」の色合いが強かった前期計画から立ち止まり、地元の声をしっかり聴いて、学びの選択肢や人づくりを重視した計画案である。
- ・ 「生徒の希望する進路の実現」、「地域や地域産業を担う人づくり」の基本的な考え方について、これまでの議論を十分に踏まえた内容となっており、素晴らしいものと評価している。

2 後期計画の具体的な取組について

(1)各地域における学びの選択肢の確保（原則として現在の学科、学級数の維持）について

1学級校維持や7学級校の維持を含め、評価するとの意見を多数いただいた。

○主な意見

- ・ 小規模校の取扱いについては、学校の魅力化に向けて支援しながら一定の入学者があれば存続させることとしており、このような県教育委員会の考え方を評価している。
- ・ 大迫高校を含む1学級校の存続や盛岡一極集中を緩和する視点が取り入れられたことについても良いことであると考えている。

(2)具体的な統合案について（統合対象校のあるブロックで出された意見）

■盛岡ブロック（盛岡南高校、不来方高校の統合）

[特徴等]

- ・ 統合については、計画案の通り進めるべきとの意見が大勢を占めている。
- ・ 盛岡市内の統合案を示したことについて、画期的な判断と評価する声も複数ある。
- ・ 後期計画策定後、中学生や保護者に混乱が生じないように、統合に向けた検討内容等について情報提供を求める意見が多数出されている。

○統合案に関わる主な意見

賛成	反対（統合案に疑問も含む）
<ul style="list-style-type: none">・ 地方の学校から規模を縮小してきたことから、志願者が盛岡一極集中の状況となっている。このことを是正するために、盛岡ブロックの大規模校を統合する計画とした後期計画案には賛同するものである。・ 具体的な取組として盛岡市内の大規模校を統合する計画が示されており、盛岡市周辺部の小規模校の入学者の確保に繋がることが期待できることから賛同するものである。・ 県全体としての課題である盛岡地区への志願者の集中に対応した盛岡地区の統合計画が示されたことについて支持したい。	<ul style="list-style-type: none">・ 矢巾町の今後の中学校卒業生の推移をみても中学校卒業生数は大きく減少しない。統合により、中学生の選択肢が狭まることも考えられること等から反対である。

■胆江ブロック（水沢工業高校、一関工業高校、千厩高校産業技術科の統合）

〔特徴等〕

- ・ 統合案に対する反対の意見が多数出されており、賛成意見はなかった。（水沢工業高校の定員充足率が高いこと等から統合は時期尚早、通学時間が長くなること等による生徒・保護者の負担増の可能性、教育内容の充実で統合の目指す効果は得られるなど）

○統合案に関わる主な意見

賛成	反対（統合案に疑問も含む）
<ul style="list-style-type: none"> ・ なし 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広大な圏域に及ぶ統合案は、通学距離が遠くなるために生徒や家庭の負担が大幅に増加することから、やむなく自宅に近い高校を選択せざるを得ない生徒の増加が予想され、かえって多様な進学機会を妨げることが懸念される。当市としては統合案に賛同しかねる。 ・ 今ある3つの工業高校等を存続させたままで、学びの内容を充実させることでも目指す効果は得られるのではないか。 ・ 通学範囲が広域になることから、現時点では賛同できないという立場である。 ・ 現状では県南地域の3校統合に疑問が残る。後期計画期間後に向けて、改めて検討するとしても良いのではないか。

■両磐ブロック（水沢工業高校、一関工業高校、千厩高校産業技術科の統合）

〔特徴等〕

- ・ 統合案に対する反対の意見が多数出されており、賛成意見は一部にとどまっている。（通学が困難となる生徒が出る可能性、通学時間が長くなること等による生徒・保護者の負担増の可能性、ブロック内に工業の学びがあることの必要性、費用対効果など）

○統合案に関わる主な意見

賛成	反対（統合案に疑問も含む）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 一定の規模や充実した設備のもとで、より高度な技術を学ぶことは重要と考えており、今回の統合案はやむを得ないと考える。時代に一致する統合と考えている。 ・ 生徒数の減少もあり、統合はやむを得ない。統合案に賛成という立場で発言するが、ブロックを越えることについては、通学への支援や寮などインフラの整備も必要と考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ブロックを越える統合となれば、生徒の通学環境に影響が生じる。主役は生徒であり、今回の統合案は無理がある。 ・ ブロックを越えて集約してしまえば、ブロックの中で工業の学びを選択できなくなる。平成27年度に示された「今後の高等学校教育の基本的方向」では、ブロックの中で専門学科を選択できるよう学校を配置することとしており、その環境は堅持してほしい。 ・ 新設校に予算をかけるより、現在の各高校に最新の設備を導入し、教育の内容を充実させれば良いのではないか。工業高校を集約することは不要と考える。

■宮古ブロック（宮古商工高校、宮古水産高校の統合）

[特徴等]

- ・ 首長、漁業関係者からは宮古水産高校の存続を望む意見が出されている。（水産高校の中心校は単独で存続させるべき、高田高校・久慈東高校における水産の学びを宮古水産高校に集約する方が良いなど）

○統合案に関わる主な意見

賛成	反対（統合案に疑問も含む）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 水産についての専門的な学びは、これまで同様に維持されることから、統合した結果、地域の水産業が衰退することには繋がらず、現実論として、今後の学校教育において、農業、工業、商業、水産を含めた6次産業化がより具現化されていくこととなり、地域には、そのような学習を推進することができる教育環境を提供していく役目があるものと認識している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 統合により、水産業を担う水産高校をなくすことは、県の施策に相反するのではないかと。水産高校を単独で維持しなければ、漁業関係者が減少している三陸沿岸地域の水産業は、さらなる衰退を招くこととなる。 ・ 宮古地区には水産業の歴史があることから、水産業を担う学校として位置付けられている宮古水産高校は統合せず、単独で維持すべきである。 ・ 近年は漁業関係者が減少しており、担い手を育成する宮古水産高校は、地域にとって最後の砦である。統合となると水産業の担い手の育成が一層難しくなり、水産業界のよりどころがなくなるのではないかと。

■二戸ブロック（福岡工業高校、一戸高校の統合）

[特徴等]

- ・ 統合案に対する反対の意見は一部にとどまっている。（校舎改修中に統合案を示すことに対する疑問など）
- ・ 統合案以外の、地域における学校の重要性、教育内容の充実等に関する意見が多数出されている。

○統合案に関わる主な意見

賛成	反対（統合案に疑問も含む）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の生徒数が減少している現状から、高校再編はやむを得ないと理解しているが、再編にあたっては、地域の実態等を考慮してもらいたい。 ・ 福岡工業高校と一戸高校は素晴らしい特色を持つ学校であることから、高校再編にあたっては、これまでの両校のレベルを落とすことなく、生徒が入学したいと考えるような学校づくりを目指してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福岡工業高校の校舎改築が進められている中、唐突であると感じている。学校の存続に向けては、二戸地区の議長連名による要望書が5月に提出されたところである。 ・ 二戸ブロックから他地区の高校に流出する生徒が多いが、2校を統合することで生徒の流出に歯止めをかけることができるかは疑問である。

3 その他

1学級校の「直近の入学者が2年連続して20人以下となった場合には、原則として翌年度から募集停止、統合」の基準について、見直しを求める意見が複数出されている。

後期計画の策定に向けた地域検討会議（第4回）の主な意見

ブロック	主な意見・提言等
<p style="text-align: center;">盛岡 ①</p> <p style="font-size: small;">(八幡平市、岩手町、 雫石町、葛巻町)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小規模校の取扱いについては、学校の魅力化に向けて支援しながら一定の入学者があれば存続させることとしており、このような考え方を評価している。 ・ 盛岡市内の大規模校の統合についても、画期的な取組であると評価している。 ・ 盛岡市内の高校に志願者が集中している状況を改善しなければならないことから、盛岡市内の大規模校の統合は画期的な計画であると評価している。 ・ 志願者の盛岡一極集中の状況を是正するために、盛岡市内の大規模校を統合する計画とした後期計画案には賛同するものである。 ・ 盛岡市内の大規模校の統合については画期的な計画であると評価するものの、盛岡市周辺部の高校の入学者確保に向けて対策を講じなければ、私立高校の入学者が増加するだけである。 ・ 4回目の開催となる本会議においては、後期計画案の具体について示されており、よくまとめられていると評価している。 ・ 高校の魅力化促進事業を進めるに当たっては、地域産業と連携を図り、地域の良さを生かした能動的な取組となるようお願いしたい。 ・ 地域における高校の役割を理解し、1学級校でも存続させる考え方を評価している。 ・ 盛岡市内の大規模校の統合については、盛岡市周辺部の小規模校の入学者の確保に繋がることが期待できることから賛同するものである。 ・ 小規模校であっても、ICT環境の整備と連動させることで探究的な学びを実現できるよう、教育活動の充実に力を入れていただきたい。
<p style="text-align: center;">盛岡 ②</p> <p style="font-size: small;">(盛岡市、滝沢市、 紫波町、矢巾町)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 盛岡南高校と不来方高校の統合計画について、盛岡市長も、6月に行われた市議会における答弁で、今後市内の中学校卒業予定者数の減少が見込まれる状況ではやむを得ないものであると理解を示したところ。 ・ 教育委員会としては、特に盛岡南高校の近隣の中学校に在籍する生徒にとって、進路選択の幅が狭くなる等の影響が大きいものと捉えており、子どもたちの不安を解消するべくきめ細かな進路指導を行う必要が生じるのではないかと答弁したところ。ついては、統合の具体的な内容や詳細について情報を発信し、周知に努めていただきたい。 ・ 紫波総合高校設立から時が経ち、現在の中学生が総合学科高校へ求めるものが変化しているのではないかと。県全体で、総合学科高校の在り方について再考が必要なのではないかと感じている。 ・ 基本的には、後期計画案を支持したい。紫波郡の子どもたちにとって多くの選択肢が確保されることとなり、とても良い内容になっていると考える。他方で、総合学科高校の取扱いについてあまり触れられていなかったことが気懸かりであり、総合学科高校の学びの充実や魅力向上についてもよろしくお願いしたい。 ・ 盛岡地区の統合については支持するものであるが、盛岡南高校が統合されることについて、同校の同窓会等への丁寧な説明を行う責任が県教育委員会にはあるのではないかと。新設校においては、医師等の医療従事者の育成に向け、併設型中高一貫教育の導入等、環境整備を検討していただきたい。 ・ 県全体としての課題である盛岡地区への志願者の集中に対応した盛岡地区の統合計画が示されたことについて支持したい。また、基本的な2つの考え方についても賛同する。特別な支援を要する生徒は増加しており、そのような状況への対応も行っていただきたい。
<p style="text-align: center;">岩手中部</p> <p style="font-size: small;">(花巻市、北上市、 西和賀町)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 示された後期計画案は、これまで開催された会議の中で出された意見が反映された内容となっているものと認識している。特に、前期計画で学級減等を予定していた花巻南高校、花北青雲高校両校の学級減等を後期計画に入れなかったことに対し感謝を申し上げるとともに、大迫高校を含む1学級校の存続や盛岡一極集中を緩和する視点が取り入れられたことについても良いことと考える。 ・ 後期計画案は、これまでの地域検討会議で出された意見が反映されたものとなっており、意見を汲み取っていただき、感謝申し上げる。 ・ 後期計画における「生徒の希望する進路の実現」、「地域や地域産業を担う人づくり」の基本的な考え方について、これまでの議論を十分に踏まえた内容となっており、素晴らしいものと評価している。 ・ 後期計画の具体的な取組として、地域の産業教育の拠点となる専門高校等の整備を掲げており、産業集積が進んでいる県南地域において大規模な工業高校の新設を示したことについて評価している。 <p style="text-align: right;">(次頁へ続く)</p>

	<ul style="list-style-type: none"> 後期計画における「生徒の希望する進路の実現」、「地域や地域産業を担う人づくり」の基本的な考え方は、大変すばらしいものと評価している。特に、生徒の希望する進路の実現に向け、中学生の選択肢を確保することは重要と考えている。 後期計画案においては、盛岡一極集中の緩和や地方創生の観点から小規模校も存続させるなど、良い内容であると評価している。 「直近の入学者が2年連続して20人以下となった場合には、原則として翌年度から募集停止、統合」の基準については再考をお願いしたい。仮に、1学級が20人以下となったとしても、地域で学びたいという生徒がいる限り、高校を存続させるべきである。 「直近の入学者が2年連続して20人以下となった場合には、原則として翌年度から募集停止、統合」との基準については、それぞれの地域の事情もあり、見直してもらいたい。
<p>胆 江 (奥州市、 金ヶ崎町)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 後期計画案で示された2つの基本的な考え方は、奥州市で本年度から取り組んでいる「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」の目指す方向とも合致しており、納得できる考え方であり賛同するものである。 後期計画案の具体的な取組において、原則として現在の学校・学科及び学級規模を維持するという方針は支持したい。また、県南地域における産業集積の状況の認識や、ものづくり産業人材育成に対する高校教育の役割が大きいという認識にも口をはさむ余地はなく、教育環境の整備に向けた方向性は共感できるもの。 しかし、胆江地区と両磐地区という広大な圏域に及ぶ統合案は、通学距離が遠くなるために生徒や家庭の負担が大幅に増加することから、やむなく自宅に近い高校を選択せざるを得ない生徒の増加が予想され、かえって多様な進学機会を妨げることが懸念される。今般(7/27)、水沢工業高校同窓会を含む5団体から奥州市長に提出された要望書の趣旨も踏まえ、奥州市としては統合案に賛同しかねる。 2つの基本的な考え方は、これまでの地域検討会議における意見も踏まえながら取り纏めた内容であり、良いと思う。 具体的な取組における県南地域の統合案については疑問が残る。今ある3つの工業高校等を存続させたままで、学びの内容を充実させることでも目指す効果は得られるのではないかと。 2つの基本的な考え方は、その通りであると賛同できる。 具体的な取組における「地域の産業教育の拠点となる専門高校等の整備」という考え方は賛同できるが、工業だけでなく、胆江地区の基幹産業である農業にも目を向けてほしい。ブロックを越えた統合は、通学面等での課題も残ることから、現時点では賛同できない。 前期計画は「生徒減への対応」という色の濃い再編だったが、後期計画案では地域の要望を取り入れながら、人材育成への取り組み方を示した良い内容であると考えます。 具体的な取組については、ハード面の整備が強調されており、ソフト面における取組についても踏み込んだ形で示してほしい。特に、県南工業高校における統合の効果を得るためには、カリキュラムを相当充実させなければならないものと考えます。 生徒減少の状況に鑑みれば、統廃合を含む高校再編は避けて通れないものと思うが、現状では県南地域の3校統合に疑問が残る。
<p>両 磐 (一関市、平泉町)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 適正規模の高校を配置するという考え方は理解できるが、一関市は東西に広く、千厩地区から奥州市へ通学する場合、2時間を要する。通学する生徒への影響を考える必要がある。 自動車や半導体の集積は北上地区が中心であり、あえて地域を広げるなら北上地区と胆江地区と考える。一関市は独自の路線を歩んでおり、産業集積とブロックを越えた統合を同様に考えるのは疑問がある。 専門教育を充実させるという考え方には賛成だが、3校を統合しなければできないのか。現在の学びを充実させることが重要であり、地域の産業人材の育成を考えれば、集約化は不要と考える。 両磐地区は普通科、専門学科の高校がバランスよく配置されている。再編の基本的方向を基に再編計画が策定されており、ブロック内で高校を選択できる環境は守ってほしい。 工業高校の学びの内容を改編していくことが必要であり、ITやロボットといった技術は今後、どの学科においても必要となってくる。技術革新に対応する学びは、現在の教育課程の中で考えるべきであり、現時点では、内容の進化が必要と考える。 後期計画の基本的な考え方についてはその通りである。 県南地区の統合は工業高校同士の統合であるが、他地区のようにブロック内で学科の異なる高校同士の統合は考えなかったのか。生徒の自宅から最寄り駅までの距離も勘案しなければならない。

<p>気仙 (大船渡市、陸前高田市、住田町)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 後期計画案における「生徒の希望する進路の実現」、「地域や地域産業を担う人づくり」の基本的な考え方は、多くの人が支持するものと考えている。 後期計画案は、地域検討会議等の意見を踏まえた内容となっており、良くまとまった案と評価している。 後期計画案においては、気仙ブロックにおける統合の方向性は示されていないが、今後も、現在の学級規模及び学科を維持してほしいと考えている。特に、地域の産業界からは、工業学科の維持を求める強い意見が寄せられている。 高校再編において、教育の機会の保障と教育の質の保証は重要な視点と考えている。これらを実現させるためにも、ICT等の環境整備などを積極的に進める必要があるものと考えている。 後期計画案において、気仙ブロックの学級規模及び学科については、現状を維持するとの方向性が示されており感謝申し上げます。 後期計画案については、全体として良い内容になっているものと思う。今後も少子化が続く中、後期計画期間後における高校再編の方向性についても検討し、後期計画の中に盛り込んでも良いのではないかと。 後期計画案において、「直近の入学者が2年連続して20人以下となった場合には、原則として翌年度から募集停止、統合」との基準はあるものの、1学級校の取組によっては、存続の可能性を残す内容となっており、希望が持てる案を示していただき感謝申し上げます。
<p>釜石・遠野 (釜石市、遠野市、大槌町)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 後期計画案は、それぞれの地域が抱えている課題に対応した内容になっており、概ね評価させていただきたい。今後は、地域の実情や地域の声をよく踏まえて計画の推進に取り組んでいただきたい。 後期計画案の作成に当たって丁寧な検討をしていただき、感謝申し上げます。県教育委員会にあっては、大人の側の理屈だけでなく、子どもたちのニーズをしっかりと捉え、高校再編に取り組んでいただきたい。今後は、高校が十分に魅力を発信できるように市としても支援をしていくものであるが、県にも支援をお願いしたい。 遠野高校と遠野緑峰高校の統合が計画から除外され、両校が存続されたことについてお礼申し上げます。今後も、学校と連携しながら両校の魅力向上に取り組んで参りたい。 地域に根差した高校を存続させていくためにも、これまでの基準を見直し、少人数学級の導入等、新たな仕組み「岩手モデル」の構築が欠かせないものと考えている。 後期計画案の作成に当たっては、丁寧な検討をしていただき、感謝申し上げます。今後の5年間は、普通科再編等、高校教育において大きな変革が起こるものと考えており、県教育委員会にあっては、今後の取組の方向性を早くから示していただきたい。 後期計画の総論については評価をするものである。県と地域が連携しながら小規模校における教育の充実を図る好機ととらえ、コーディネーター等の専門職員の配置を行いながら、新しい岩手型の教育をつくるためにチャレンジするという意気込みで後期計画に取り組んでいただきたい。
<p>宮古 (宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 宮古商工高校と宮古水産高校の統合には反対する。「いわて県民計画」においては三陸防災復興ゾーンプロジェクトを掲げており、水産産業を担う水産高校をなくすことは、県の施策と整合しない。漁業関係者が減少している三陸沿岸の水産産業は、さらなる衰退を招くこととなる。 三陸沿岸においては、水産産業が地域の経済を牽引してきたことから、地域の産業を立て直すためには、宮古水産高校を核に進めていくことが肝要である。内陸部からも水産を学びたいと考える生徒を受け入れる環境を整備し、水産高校への入学者を確保しなければならない。 令和7年度の統合に向けた議論に先立ち、まずは地域の専門学科における教育の実態と課題を踏まえ、県教委とともに、地域の産業振興に向けた議論を深めていきたい。 宮古水産高校を単独で存続させるのであれば、例えば、高田高校の水産学科と久慈東高校の水産系列を、宮古水産高校に新築校舎や寄宿舎を整備した上で集約し、本県における水産教育の拠点校として位置付けるビジョンが必要ではないか。 令和7年度の統合を目標とした後期計画とするのではなく、宮古水産高校の存続に向けた具体的なビジョンを示しながら議論を重ねることが先なのではないか。 後期計画案においては、1学級校を大切にしている方向性が示されており、県教委の考え方に賛同する。 宮古地区には水産産業の歴史があることから、宮古水産高校を統合するべきではない。 「地域や地域産業を担う人づくり」を大切にしている考え方には賛同するものである。 地元の高校に通学することで、将来の進路を実現できる教育環境を整備するという後期計画案の考え方に賛同する。 後期計画案は、少子化の進行により統合はやむを得ないという県教委の消極的な考え方に基づき作成されており、統合についての各論は、地域にとってマイナス要因しかないものである。

<p>久 慈 (久慈市、洋野町、野田村、普代村)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回示された後期計画案は、学級減を中心とした「数合わせ」の色合いが強かった前期計画から立ち止まり、地域の声をしっかり聴いて、学びの選択肢や人づくりを重視した計画案であると捉えている。地域を支える人材の育成も必要であるが、全国や世界で活躍できる人材の育成も重要と考える。 ・ 地域検討会議で寄せられた意見を真摯に受け止め、後期計画案に反映させたことに敬意を表したい。中学校卒業予定者の減少が見込まれ、多くの高校が定員を満たせないことは容易に想像ができる。大学進学や医師、弁護士など専門知識を身に付けたいと考えている生徒が多くいる中で、1学級40人という定員にこだわるのであれば、今後、高校の規模を維持していくことは難しいのではないか。 ・ 地域検討会議での意見集約から後期計画案の検討、意見の反映状況に対し、感謝申し上げる。後期計画案における「地域の産業を担う人づくり」という考え方や一定の入学者がいるうちは1学級校を維持する考え方を大変評価している。 ・ 今回示された後期計画案は、これまでの地域検討会議での意見がうまくまとめられている。生徒や地域にとって重要な存在である1学級校を一定の入学者がいる間は維持することとした方針には感謝する。久慈市内の高校は、過去に様々な統廃合を繰り返し、現在の配置となっている。久慈高校、久慈東高校及び久慈工業高校のそれぞれを存続させるため、久慈東高校の系列の一部を久慈工業高校へ移管するなど発想の転換が必要である。 ・ どの地域においても、仮に小規模となったとしても地域の高校を存続させてほしいといった意見があるが、存続する高校をどのように運営していくかが重要と考える。今後も少子化は進行し、現在の1学級40人の定員では学級数を維持することも難しくなることから、少人数学級の導入についても検討する時期と考える。 ・ 地域検討会議の意見が反映された計画案と捉えている。教育の質の維持についても、引き続き努めていかなければならないと考えており、生徒数の減少により高校の小規模化が進む中であっても教育の質を維持する取組を進めてほしい。 ・ 入学者が2年連続して20人以下となれば、募集停止、統合を検討するということであるが、地域や生徒の希望を考えれば、この基準には疑問がある。1学級40人という定員が適正な数であるのかを検証した上で、今後の高校のあり方を考えていただきたい。
<p>二 戸 (二戸市、軽米町、九戸村、一戸町)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福岡工業高校の改築が進められている中、一戸高校との統合は唐突に感じる。福岡工業高校の存続に向けて、5月には二戸地区の議長連名による要望書が提出されており、単独での存続を要望する。 ・ 高校再編は、全ての地域を一律に考えるのではなく、県央部以外の地域については、教員配置や施設設備の充実等、手厚い配慮が必要である。 ・ 特別支援学校の設置もあわせて考え方を示してほしい。 ・ 少人数学級の実現、教員加配により教育の質を維持し、地域の学びを守るのみではなく、将来の人材育成を念頭に置いた検討をしてほしい。 ・ 生徒の減少には学級減での対応ではなく、少人数学級の実現により学級数を維持し、教員数を確保していく方向性でお願いしたい。 ・ 高校は教育機関のみの役割ではなく、地域の資源である。教育機会均等の観点から、私立高校が立地しない地域にこそ公立高校が必要である。 ・ 高校再編が、地域の生徒の希望となることが伝わらなければ、統合校の入学者を確保することは難しい。校舎や施設設備を新築して、これからの時代に対応できる教育を実践していくことを明確化するべきである。 ・ 福岡工業高校と一戸高校の統合については、実際に校舎制として統合した場合の学校運営の在り方について考えていくべきである。 ・ 地域の生徒数が減少している状況を見ると、高校再編はやむを得ない。私立高校に入学を希望する生徒が増加傾向にあり、二戸地区の高校の入学者を確保するためには、地域の高校への手厚い支援が必要である。

高校再編計画（後期計画）に関する意見交換会（第2回）の主な意見

ブロック	主な意見・提言等
<p style="text-align: center;">盛 岡</p> <p>(盛岡市、八幡平市、滝沢市、岩手町、葛巻町、雫石町、紫波町、矢巾町)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 盛岡南高校は東北初の体育学科として設置され、世界的にも活躍する選手を輩出してきた実績がある。また、不来方高校も、スポーツや芸術に特色がある学校であり、全国的な活躍をしている。このような特色ある学校の統合には反対であり、単独で維持していくべきと考える。 ・ 統合の目的は、盛岡市内の学校への志願者集中の緩和としているが、都市部一極集中化は特に問題がないのではないかと。社会的には、集中させて充実させるという考え方に変化していると認識している。 ・ 地方の高校に欠員が多い理由は学校の魅力が不足しているためであり、盛岡市内の学校を統合することで志願者の集中を是正できるかは疑問である。 ・ 盛岡南高校と不来方高校は魅力ある学校であり、1つの学校に統合するメリットがない。体育や芸術等において、さらに切磋琢磨できる教育環境を整備するという考え方を示しているが、すでに両校で切磋琢磨している状況なので、統合せず単独で維持するべきである。 ・ 盛岡市内の高校の統合には大賛成である。少子化と盛岡市内の学校への流出等により、盛岡市周辺地域の県立高校が縮小されている状況は深刻である。盛岡南高校と不来方高校の統合により、盛岡市周辺の地域と学校を守ることを考えてほしい。 ・ 後期計画案については、様々な地域の声を聴きながら検討されており、その基本的な考え方や具体的な取組については、英断であると評価している。統合については、地域の理解を得ながら進めてほしい。
<p style="text-align: center;">岩手中部</p> <p>(花巻市、北上市西和賀町)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ハイスクールガイドに各高校の特色が記載されているが、卒業後の進路実績等、詳細に記載してほしい。将来の目標を決めていない中学生に、地域の高校の実績等を明確に伝えることで地域外の高校へ流出する生徒も減少するのではないかと。 ・ 大迫高校は一定の基準は残るものの、後期計画期間中は存続するということでありがたいことと感じている。交通事情や経済的な面から旧大迫町外の高校へ通学することが困難な生徒もおり、現状を維持するようお願いしたい。 ・ 後期計画の2つの基本的な考え方は、これまでの地域検討会議や意見交換会での意見を踏まえたものであり、これを反映したことに感謝したい。高校卒業後も岩手に残る人材を育成することが大切であり、岩手に残り、地域を支えることに価値があるという考え方が得られる授業を取り入れてほしい。 ・ 高校への入学者は減少しているが、支援が必要な生徒や特別支援学校への入学者は増加している。支援が必要な生徒が高校へ進学できるよう受入れ体制を整備してほしい。
<p style="text-align: center;">胆 江</p> <p>(奥州市、金ヶ崎町)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 胆江地区、両磐地区とも広大な面積を有しており、生徒が千厩から奥州市に通学することは大変である。交通の便や産業構造を考えれば、むしろ北上市や金ヶ崎町との関連が強く、水沢工業高校は黒沢尻工業高校との統合と考えていた。 ・ 校舎の新たな建築、新しい学科の設置、最新の施設整備は魅力的なことである。現在の施設や設備は老朽化しており、現状の施設で習得する技術レベルでは社会で役立つ技術が身に付かない。 ・ 今回の統合案は6学級の工業高校の新設であり、盛岡工業高校、黒沢尻工業高校と同規模の学校である。大規模となることで、部活動や行事においても、活性化が図られるものと考える。後期計画案のとおり計画が進み、学習のみならず、部活動や学校行事においても充実した環境を整えていただきたい。 ・ 大規模な工業高校を整備することで、逆に生徒の選択肢を狭めるのではないかと。県教委が理想とする内容は理解するが、実際には難しいのではないかと。 ・ 定員の充足率も9割を超えており、ブロックを越えてまで統合することは疑問である。逆に統合することで、定員充足率が減少するのではないかと。地元にとってもかけがえのない高校と考えており、水沢工業高校として更なる発展を期待したい。 ・ 校舎の新設には賛成であるが、設置場所については、統合決定後の検討委員会では結論がまとまらないのではないかと。ある程度、場所を示していただければ、通学支援などイメージがしやすいのではないかと。 ・ 両校のこれまでの歴史や同窓生によるブランド力の維持よりも、それらを引き継ぐ新しい高校のブランドを作っていくことが重要と考える。 ・ オンライン授業やオンライン実習など、現在のICT機器等の整備方針を踏まえれば、新設校までの通学の支障など不便さも解消できると考える。

<p>両 磐 (一関市、平泉町)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 後期計画案の基本的な考え方及び具体的な取組については、概ね、その通りであろうと捉えている。 県南地域の統合は広い範囲の統合であることから、生徒の通学が困難となり、保護者に負担をかけることになるのではないかと懸念している。 半導体や自動車関連産業の人材育成のために大規模校を設置するという発想は、将来的に時代遅れとなる。現在設置されている学校の充実等、違う観点で、工業教育の在り方を考えていくべきである。 将来的には生徒数だけではなく、地方財政も縮小してくこととなる。そのような中で、大規模校を維持・運営できるのかは疑問である。 高校再編計画は、外部の有識者による「今後の高等学校教育の基本的方向（H27.4）」に基づき策定されるべきものであるが、この中には、ブロックを越えた統合については示されていない。基本的方向に記載していないのであれば、後期計画に盛り込むことができないのではないかと懸念している。 工業高校の卒業生は、半導体と自動車関連産業への就職のみではない。地場の建設業をはじめとする多様な分野で活躍していることから、それぞれの地域に工業高校の設置は必要である。 カリキュラムの見直し等は時代に応じて行うべきであるが、地域の学校の再編については現時点では拙速であり、10年後の産業動向を見通し、十分な時間をかけて検討するべきである。
<p>気 仙 (大船渡市、陸前高田市、住田町)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1学級校は1学年で最低20人を超える生徒を維持していかなければならないが、生徒数の維持には地域からの支援が必要と考える。 新型コロナウイルスの影響もあり、ICT機器等を活用したオンライン授業等の導入についても検討する時期と考える。企業等においてもICT機器等を活用した在宅ワークが導入されており、学校現場への導入はハードルが高いと考えるが、積極的に導入を進めるべきである。 震災から10年が経過し、当時の記憶が薄れている生徒が増えており、震災の教訓を活かし、防災教育を深めていくべきである。 小規模校の学びを存続させるという再編計画の策定にあたり、県教委は苦勞されたものと思う。数の視点ではなく、生徒の学びの選択肢を確保する視点で再編計画を策定したことに敬意を表したい。今後ともこの方針で地域の学びを確保してほしい。 小規模校への教員加配はありがたいことであるが、1学級の定員40人が適正であるのか疑問に感じている。県独自で35人学級を導入し、教育の質を高める取組が必要と考える。
<p>釜石・遠野 (釜石市、遠野市、大槌町)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 後期計画案では、1学級校を含め地域の高校を存続させる内容となっており、非常に良い内容になっているものと考えている。 宮古商工高校は、統合の効果として、部活動の選択肢が広がり学校が活性化しているとの話を聞いている。これも、高校の魅力の一つであり、今後も校舎制による統合を検討して良いのではないかと懸念している。
<p>宮 古 (宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 県内の漁業就労者は、この15年で約4千人減少して高齢化も進んでおり、若い世代の漁業就労者が減少している状況に危機感を持っている。本県の漁業や宮古市の発展に資するような高校再編を行ってほしい。 少子化の現状や高校再編の必要性は理解するものであるが、宮古水産高校という名前に強いこだわりを持っている。現状から判断すると、統合は免れないものという印象を持つが、国内の水産高校でおそらく最も長い歴史を誇る「宮古水産高校」という名前をぜひ残していきたいと考えている。 水産業に携わる団体としても、水産業を志す生徒を増やしていきたいと考えているところであり、宮古水産高校の統合については今しばらく猶予していただき、水産学科の入学者の推移を見守っていただきたい。 複数の学科がある高校では、入試において第3希望の学科まで出願できるが、例えば、商業を学びたいという生徒が、水産学科を第2、第3希望とするものか疑問である。 宮古水産高校と宮古商工高校を統合し、水産学科を存続させるということだけで、水産業の振興に繋がるものか疑問である。沿岸地域の水産の学びをブロックを越えて宮古市に集約した方が本県の水産業の振興に寄与するのではないかと懸念している。

<p>久 慈 (久慈市、洋野町、野田村、普代村)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 後期計画における「生徒の希望する進路の実現」、「地域や地域産業を担う人づくり」の2つの基本的な考え方について、賛同するものである。 ・ 久慈東高校と久慈工業高校の統合について、久慈市民、野田村民が統合の内容を正しく理解しているのか疑問に思う。両校が統合することによって、工業学科が1学科減ることとなり、工業の学びが限定されてしまうことに危機感を持っている。 ・ 久慈工業高校は、地元への就職の割合も高く、地域を支える人材育成に貢献している。このような高校は、単独で存続させるべきである。
<p>二 戸 (二戸市、軽米町一戸町、九戸村)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県は福岡工業高校の校舎改築工事を行うに当たり、その機能の発展が見込まれていて、学校統合の計画もないと説明しており、今般の統合計画は、それと矛盾するものである。 ・ 両校の統合について改めてパブリック・コメントを行う等、広く地域の声を聞き、意見交換を行う機会を設けることを検討してほしい。 ・ 両校の統合により、工業学科が1学級となることで工業教育の専門性が低下する懸念があることから統合には反対である。 ・ 福岡工業高校と一戸高校は小規模校の特長を生かした教育活動を実践しており、現在の特長が損なわれる恐れがあることから、統合には反対である。 ・ 両校の統合により、生徒の流出が改善されるという考え方に対して非常に疑問を感じる。高校卒業後に地域で働く場の確保やまちづくり等の課題を改善するべきではないか。 ・ 同窓会としても福岡工業高校の支援に取り組み、盛り上げていきたいと考えている。ぜひ、同校の単独での存続をお願いしたい。 ・ 統廃合は避けられない現実であると捉えている。いわゆる「落としどころ」として、現在ある進学校や小規模校（普通科）については存続させ、専門高校については統合するにしても各ブロックに専門的な学びを存続させるべきと考える。

後期計画（案）に関するパブリック・コメントの主な意見

届いた数 96 通 (18 市町村) ※192 件	盛岡ブロック 19 (盛岡市, 滝沢市, 八幡平市, 雫石町, 紫波町, 矢巾町) 岩手中部ブロック 3 (花巻市, 北上市) 胆江ブロック 15 (奥州市, 金ケ崎町) 両磐ブロック 0 気仙ブロック 3 (陸前高田市, 住田町) 釜石・遠野ブロック 34 (遠野市) 宮古ブロック 4 (宮古市) 久慈ブロック 2 (久慈市) 二戸ブロック 15 (二戸市, 軽米町, 九戸村) 記載なし 1
--	---

区分	主 な 意 見
後期計画の基本的な考え方について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少子化による生徒減少の時代の流れに伴い、学校統合は仕方がないこと。 ・ 生徒数減への対応だけでなく、地域の特性にも十分に配慮するよう希望する。 ・ 小規模校の存続を望む。 ・ 各地域の学びの選択肢を確保した意義は大きい。 ・ 今後も数ありきではなく、地域の声を聞いて欲しい。 ・ 様々な地域の特色を生かそうとする努力がうかがえる。 ・ 小規模校に適正な教職員配置、加配を望む。 ・ 県独自の少人数学級の判断基準を構築して欲しい。 ・ 通学支援等を検討する際は、地元の意見も聞き、格差が生じないように望む。
後期計画の具体的な取組について	<p>【盛岡地区の統合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 両校の歴史を大切にしつつ、統合というより新設という考え方で議論を進めていくと良い。 ・ 両校を統合して、今までと同じようにそれぞれのスポーツの特色を残すのは不可能である。
	<p>【県南地域の統合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今よりも設備が整った環境で学ぶことができ、生徒の技術が向上するのであれば良い。 ・ 交通の便が良いように考えて欲しい。 ・ 両校とも、それぞれの地域の産業を支えているため、存続を要望する。 ・ 通学の面などを考えても大変だと思う。
	<p>【宮古地区の統合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3校が統合しても通用する学校名を望む。 ・ 宮古商工高校の統合前であり、違和感がある。
	<p>【二戸地区の統合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒のことを第一に考えれば良いことと考える。 ・ 少子化が進む中、両校の統合も致し方ない。 ・ 管内唯一の工業高校であり、就職採用を見込んでいる事業者も数多くあるため存続を願う。 ・ 福岡工業と福岡高校を統合し、商業科も復活させて「福岡商工高校」とした方が良い。